

ソーシャルネットワークに関する意識調査—日米大学生の比較—

リチャード・スウィート

カリフォルニア州立大学モントレイ校

要旨

BBSから現代のソーシャルネットワークに至るまで、インターネットを駆使し様々な方法で日常の出来事を簡単にシェアできる出来るのは当たり前になってきた。また、何気ない発言を載せたり、リアルタイムで世界を変えるような事件を見たり、ソーシャルネットワークを通し色々なことができるようになった。しかし、最近では使用頻度が高くなるに従い、ソーシャルネットワークに載せるべき内容やその倫理的使用法が問われている。

このキャップストーンではソーシャルネットワークが大学生のコミュニケーションの取り方にどの様な影響を及ぼしているのかについて研究する。ソーシャルネットワークに投稿するにはどの様な内容が適切なのか。また、それはなぜなのか等に焦点を置きアンケート調査を実施した。その結果、日本人の大学生の方がアメリカの大学生よりソーシャルネットワークを通し、コミュニケーションを取るという傾向があることが解った。つまり、日本ではソーシャルメディアが大学生達の間でコミュニケーションには不可欠だということである。更に、日本の大学生もアメリカの大学生もソーシャルネットワークに投稿すべき内容の適切さに関しでは、同じように考えていることもわかった。

はじめに

ソーシャルネットワークの発達の為 10 年前には全く出来なかったことも今では出来るようになった。例えば、遠くにい居る人々と直ぐに連絡が取れたり、話したり、ゲームと一緒に遊んだり、写真を簡単に送ったりできるようになった。ソーシャルネットワークは日米の学生はどの様に使っているだろうか。また、使用する際に、どの様な点を考慮しなければいけないのか。この研究で、日米の大学生のソーシャルネットワークに関しての意識の相違について研究した。

1. 研究の重要性

桜美林大学に留学していた時、日本人の友人は私が一度も使用したことが無いソーシャルネットワークを使ってい、使用すればするほど、日本ではソーシャルネットワ

ークの利用時間や投稿された内容の適切さはアメリカと異なると思った。この経験から、この研究ではソーシャルネットワークに関する日米の大学生の相違点を調査し、つまり、ソーシャルネットワークの使用頻度や倫理などについて研究した。

2. 研究質問

- 1) ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか。
- 2) ソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか。また、それはなぜか。

3. 研究背景

3.1. ソーシャルネットワークの定義

オンラインのウェブスター辞典によると「ソーシャルネットワーク」とは「オンラインサービスかサイトを通して人間関係を築いたり、保ったりすることが出来る。」と定義されている。また、「ソーシャルネットワーク」の代わりに、「SNS」という言葉も使われている (Social Network)。

3.2. 現在使用されている SNS

よく使う SNS はそれぞれの国によって多少違うが、共通の SNS もたくさんある。Facebook と Google+ と ツイッター は日本とアメリカで使用されている SNS として有名である。しかし、その国特定の SNS もある。例えば、アメリカでは tumblr や instagram などが人気があるが、GREE や LINE という SNS は日本人だけが利用している (通信メディア, 2014; Duggen, 2015; Hudson, 2011)。

3.3. SNS を使うモチベーション

SNS を使って、人間関係を保つことには色々な方法がある。例えば、コメントに「いいね！」をしたりすることなどが挙げられる。Ellison (2014) によって進められた

研究によると、ネットワーク内の平均の「友達」の人数は207名であったが、実際の友人は76名であった。SNSでは「友達」になる為には、ボタンをクリックするだけで、ネットワーク内でコメントやプライベートメッセージを通してコミュニケーションが取り易く、人間関係を維持する為のコストは低い。

人間関係を保つこと以外の他のモチベーションで SNS として、内発的なモチベーションといえ、**「エンjoyする為」**である。つまり、自己を満足させることである。また、外部からのモチベーションという**「友達」**の人数である。すなわち、「友達」の人数が増せば増すほど SNS の使用頻度が高まるということがわかっている。SNS を使うモチベーションはその SNS を使っている全体の人数によるものではなく、むしろ自分のネットワーク内に入っている「友達」の人数によることがわかっている。ここでまとめてみると、「なぜ SNS を使っているのか」という理由は、人間関係を保つことだけではなくて、自分のネットワークを広めたいということに刺激されていると言える (Lin, 2011)。

3.4. SNS に関する諸事情

2011年に名古屋文理大学によって進められた研究は、SNS を教育環境で使うということであった。「ソーシャルラーニング」に使用された二つのプログラムはツイッターと Libra であった。ツイッターで学生と意見を交換したり、Libra という教育ツールで教科書をアップロードしたり、ノートなどを通して教授と学生が対応できるようになった。その結果、ソーシャルラーニングは教育に役立つと思う人が85%と非常に高かったである。また、学生と先生の間を築く為には、SNS を上手に使用した方がいいと言えるかもしれない (長谷川、2013)。

SNS とマーケティングの関係について、第50回目のグラミー賞というケーススタディーを調べてみた。以前、視聴者の全体でグラミー賞を観る対象顧客層(14-49 才)は14%にすぎなかった。そこで、グラミー賞の委員会は SNS を通して、「We're All Fans」というキャンペーンを実施した。そして、その後 18-34 歳の視聴者が32%に激増した。グラミー賞以来、大勢の人が「We're All Fans」のサイトに行き、結果について

話し合った。このケーススタディーを通してソーシャルネットワークはビジネスと若者を結ぶ為に重要な役割をしたことがわかった (Hanna, 2011)。

ネットいじめとは「無名の加害者が特定の人物についてネット上へいじめの投稿をすること」とウェブスター辞典に定義されている。三枝によって進められた研究は、ネットいじめと従来型いじめの頻度を比べた。その結果、ネットいじめの頻度が高まっていく可能性があると言った (2010)。アメリカでは Barlett が日本とアメリカのネットいじめを研究をした。そこで、ネットいじめの事件は日本でもアメリカでも増えているが、アメリカの方がネットいじめをする可能性が高いという傾向があると報告している (2014)。しかし、ネットいじめの事件が増えているのは、匿名で自由に投稿が出来る為、対策を行いにくいのが現状である。

4. 研究

4.1. 調査の対象

この調査には 63 名の大学生が参加した。日本人 30 名、内男子 8 名、内女子 22 名と、アメリカ人 33 名、内男子 18 名、女子 14 名、その他 1 名である。

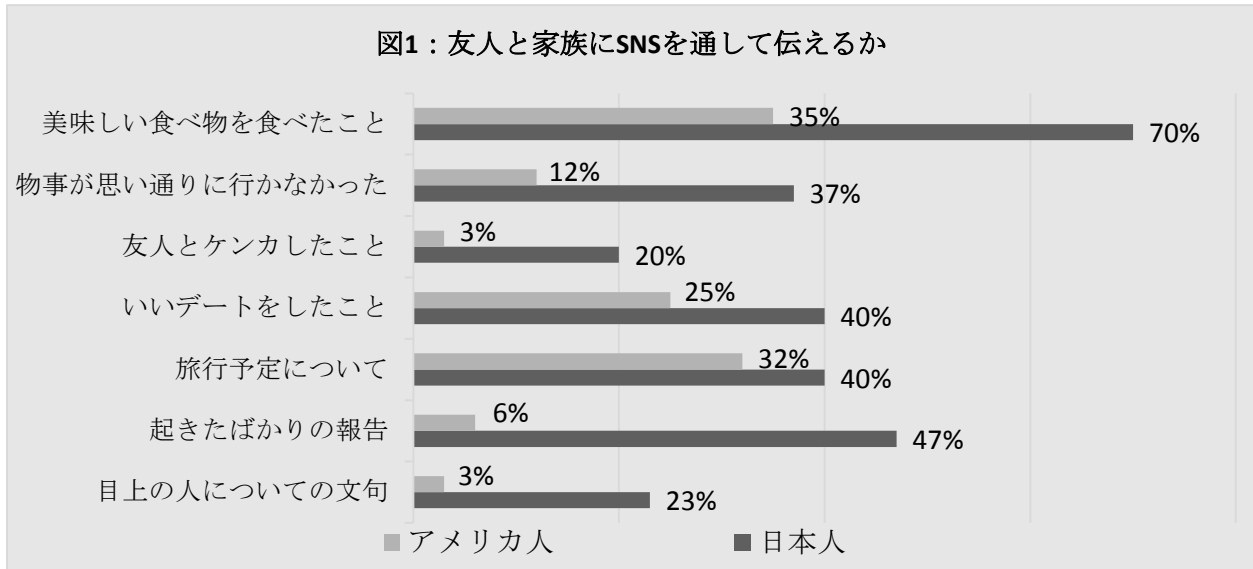
4.2. 研究方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、グーグルフォームでデータを集めた。

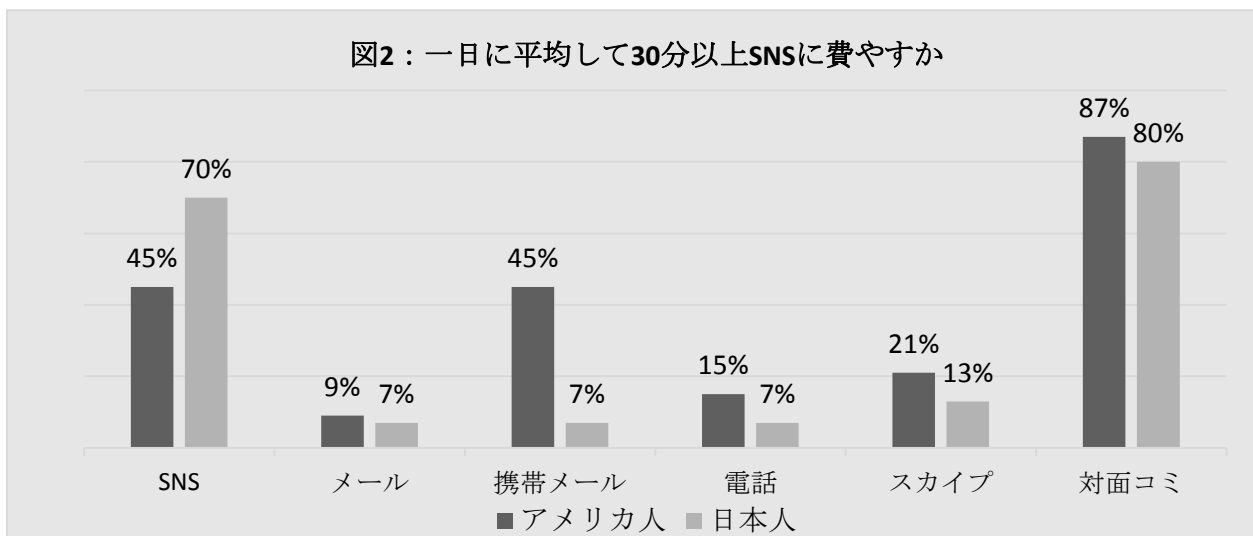
5. 結果

5.1. 研究質問 1 : ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか。

友人と家族に SNS を通して伝えるかを調査し、図 1 からわかる様に、SNS を通して、「美味しい食べ物を食べたこと」と答えたアメリカ人は 35% にすぎない。一方では、日本人は 70% とかなり上回っています。すなわち、アメリカ人の 2 倍である。この数値から全体的には日本人の大学生の方がアメリカ人の大学生より色々の場面については SNS で投稿すると言える。



次に、両者はどのぐらい SNS に時間を費やしているのかを調査してみた。その結果、一日に平均して、30分以上を費やすかを聞いたところ、日本人の大学生は SNS に長い時間を費やしている、一方、アメリカ人の大学生は携帯メールでのコミュニケーションに時間を取っていることがわかった（図2参照）。

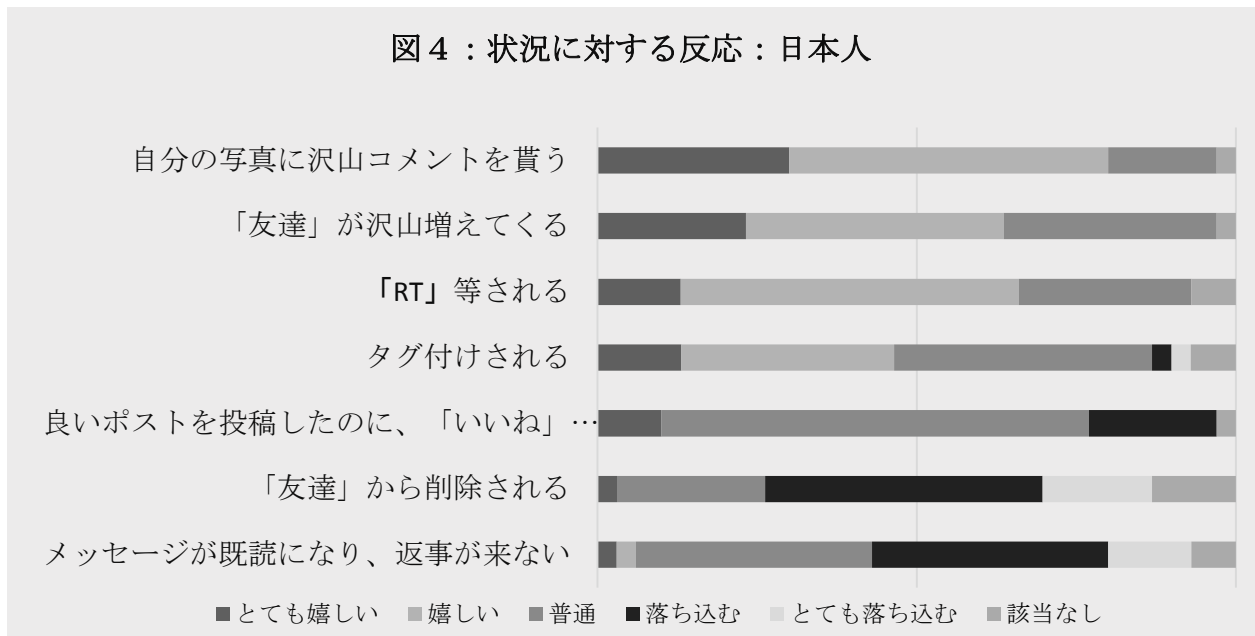


次はどのような状況において学生は SNS で嬉しくなったり、落ち込んだりするのだろうかを調べたところ、アメリカ人が「写真に沢山コメントを貰う」と「メッセージ

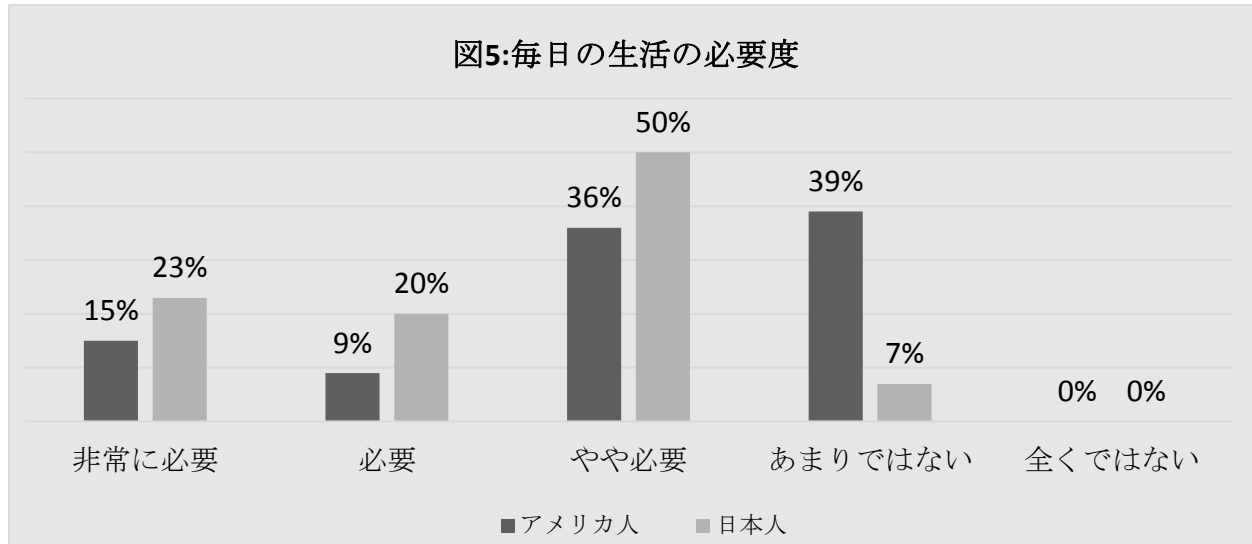
が既読になり、返事が来ない」という場面に対して反応したが、強い反応ではないと言える（図3参照）。



その反面、日本人の大学生の方は、「良いポストを投稿したのに、『いいね』をされない」という場面以外は、一般的には日本人の方がアメリカ人より嬉しくなったり、落ち込んだりするというリアクションが多かった。（図4参照）



毎日の生活の必要度について図 5 からわかる様に、日本人の大学生の 93% は最低でも SNS はある程度必要だと思っているようであるが、アメリカ人は 60% に留まっている。



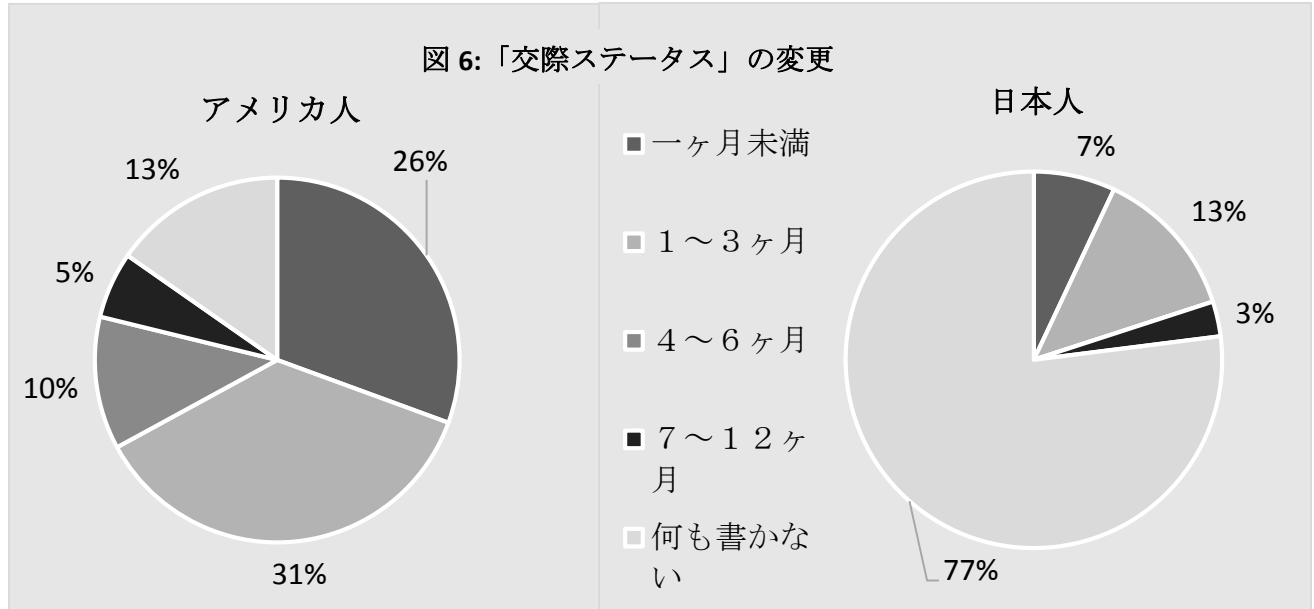
SNS に頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が失われているということに対して「非常にそう思う」と「そう思う」と回答したアメリカ人は 73% に上っているが、日本人は 50% を下回っている。

5.1.1. 研究結果 1 のまとめ

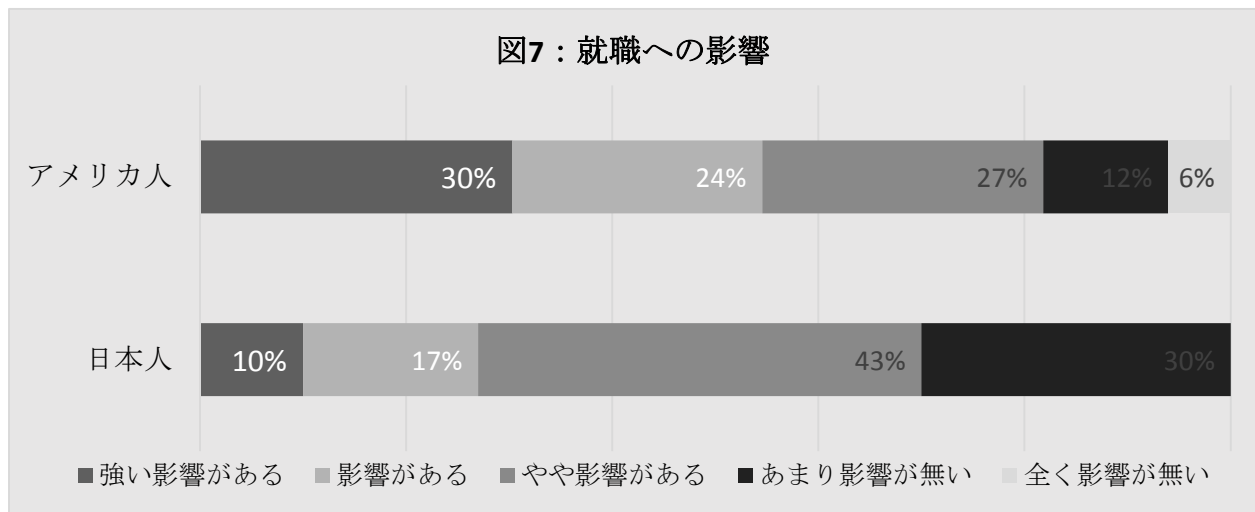
日本人の大学生もアメリカ人の大学生も対面コミュニケーションに費やす時間は多いことが解った。日本人の方がアメリカ人より SNS の使用時間は長く、また、様々なことについて投稿頻度が高いと言える。ソーシャルネットワークに関する出来事に対して、ポジティブにせよネガティブにせよ日本人の方が反応をすることもわかった。両方のグループは SNS のある程度の必要性に賛成したが、アメリカ人の方がコミュニケーションの一部として SNS を頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が次第に失われてくると強く感じていると言える。

5.2. 研究質問 2 : ソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか、また、それはなぜか。

「交際ステータス」の変更についてアメリカ人の大学生半分以上の人は3ヶ月未満で「交際ステータス」を変更するのが適切だと思うことがわかった。一方で、日本人の大学生は「何も書かない」という回答が最も多い（図6参照）。



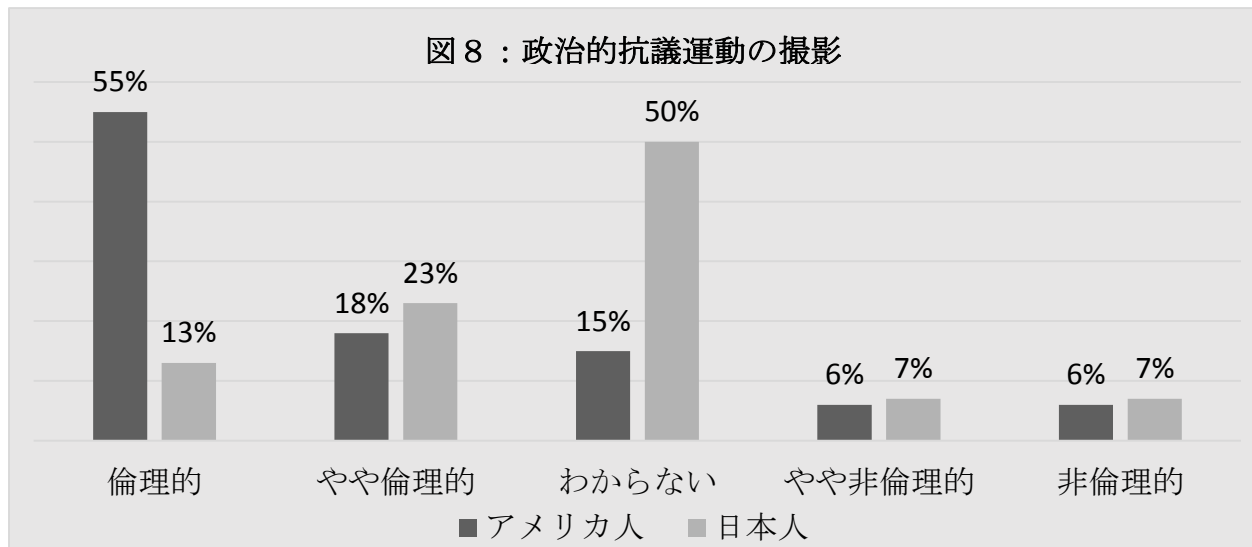
SNSが就職への影響としてSNSに投稿する内容が就職に影響を与えると思う日本人は27%にすぎない。その反面、アメリカ人は日本人の2倍も影響があると思っている（図7参照）。



次に、倫理について両者に調査してみた。許可なしに写真の投稿に関してこのグラフから許可を貰わず、他人が写っている写真をアップロードすることに対しては、両方のグループが同じように非倫理的であるということに賛成することがわかる。回答者の2人の日本人が「相手のプライバシーを侵害しているとも言えるから」と書いていた。

また、SNS を使かい、家族や友人への非難について日本人の大学生の方がアメリカ人の大学生より非倫理的だと述べている。その理由として「2人がケンカになる様な問題があれば、その2人だけの問題だと思うから SNS で広めることは非倫理的だ。SNS で自分のケンカについて投稿する必要はない。」と述べていた。

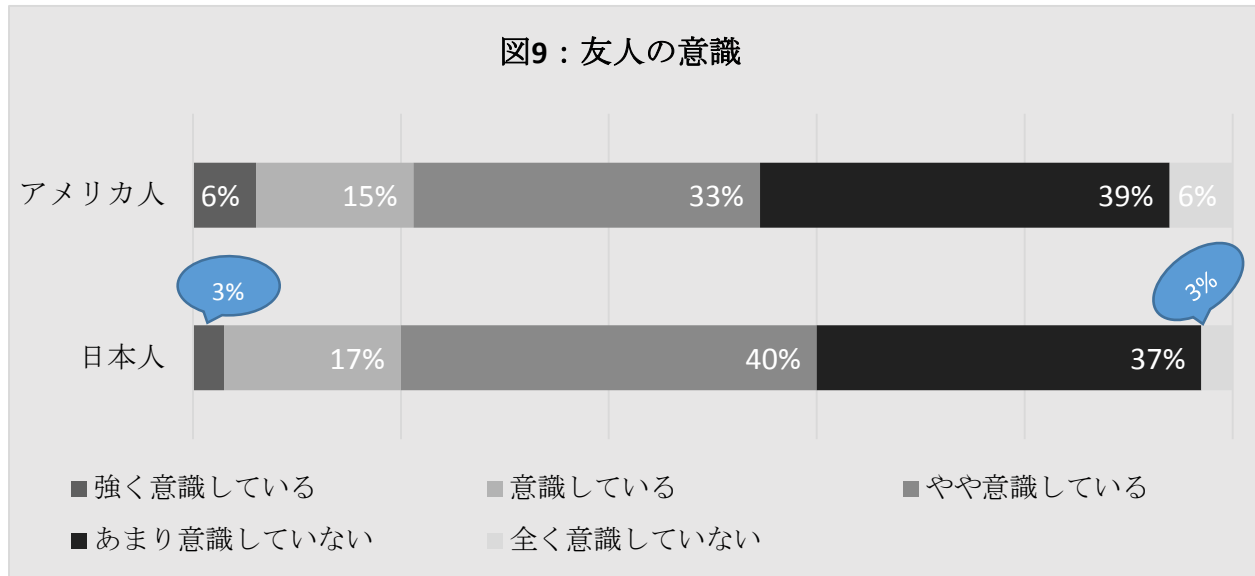
政治的抗議運動の撮影について半分以上のアメリカ人がそのビデオをアップロードするのは倫理的だと答えた。その半面、半分の日本人は意見を持っていなかった（図8参照）。



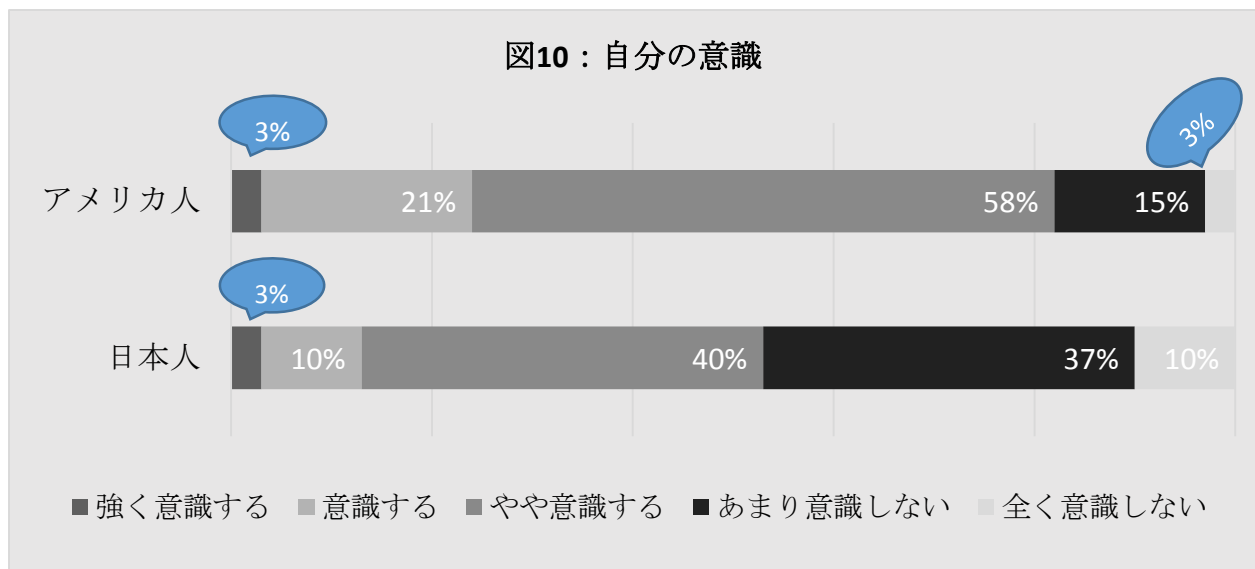
この状況だけ、日本人とアメリカ人の回答が異なった。アメリカ人は、「憲法を通しての権利」また、「言論の自由」という回答が最も多い倫理的な主張であった。その半面、「わからない」と答えた日本人の50%は経験が無いからよくわからないということを理由に挙げた。

最後に、アンケートで「自分の友人の周りの人の見解に対する意識」、また、「自分の周りの人の見解に対する」について調査した。友人の意識について色々な回答

があったが、日米の学生は友人が周囲を気遣いながら投稿していると感じている（図 9 参照）。



一方、自分の意識に関して、アメリカ人は周囲の見解に対して敏感で、「あまり意識しない」と「全く意識しない」と回答した人は18%に留まる。その半面、ほぼ半分（47%）の日本人の回答者は他人の見解を意識していないと答えた（図 10 参照）。



5.2.1. 研究結果2のまとめ

アメリカ人の学生は圧倒的になるべく早く SNS の「交際ステータス」を変更するのが適切だと考えているが、ほとんどの日本人の学生は「交際ステータス」を書くこと自体が適切ではないと考えていることがわかった。また、アメリカ人の方が SNS に投稿する内容が就職に影響を及ぼすと考えていることは興味深いと思った。日米の大学生はともに SNS を通しての批判や写真の投稿に倫理性が必要だということに同意している。しかし、SNS で政治的な見解を表すことに対しては二分している。アメリカ人は、政治的な問題に関して投稿することは言論の自由の下に保障されていると考える傾向がある。一方で、日本人は政治に関して無関心だと言えらると思う。最後に、日本人の学生の方が SNS に投稿された友人の見解に対して、あまり意識していないようだということが解らなかつた。

6. 結論

日本人の学生の方がアメリカ人の学生より SNS の必要性を感じている。従って、SNS により長い時間を費やしたり、家族や友人とのコミュニケーションを取る手段として使っていて、SNS の出来事に対して感情的なインパクトを強く感じている。この結果、日本人の学生のコミュニケーションの取り方の方が SNS により強く影響を受けている。興味深いことに、日本人の学生の方が SNS の必要性を感じているのにもかかわらず、SNS に投稿する際、個人的、または仕事上のことにダメージを受けるおそれがあるということをあまり意識していない。日米の大学生はともに評判を落としたり、障害を起こしうる主張や写真などを投稿するのは非倫理的だと感じている。

7. 考察

研究における限界点としてはアンケートの参加者が大学生のみだったの為、結果が一般化出来ない。将来の研究課題としては社会的な見解を理解する為、年齢層が違ふ人達にも参加してもらいたいと思う。

参考文献

- Barlett, C., Gentile, D., Anderson, C., Suzuki, K., Sakamoto, A., Yamaoka, A., & Katsura, R. (2014). Cross-Cultural Differences in Cyberbullying Behavior: A Short-Term Longitudinal Study. *Journal of Cross-Cultural Psychology, 45*(2), 300-313. Retrieved February 9, 2015, from Sage.
- Duggan, M., Ellison, N.B., Lampe, C., Lenhart, A., and Madden, M. "Social Media Update 2014," Pew Research Center, January 2015. <http://www.pewinternet.org/2015/01/09/social-media-update-2014/>
- Ellison, N., Vitak, J., Gray, R., & Lampe, C. (2014). Cultivating Social Resources on Social Network Sites: Facebook Relationship Maintenance Behaviors and Their Role in Social Capital Processes. *Journal of Computer-Mediated Communication, 19*, 855-870.
- Hanna, R., Rohm, A., & Crittenden, V. (2011). We're all connected: The power of the social media ecosystem. *Business Horizons, 54*, 265-273. Retrieved March 27, 2015, from JSTOR.
- Hudson, R. (2011). *Review of social media and defence: Report by George Patterson Y & R.* Canberra, A.C.T.: Department of Defence.
- Lin, K., & Lu, H. (2011). Why People Use Social Networking Sites: An Empirical Study Integrating Network Externalities And Motivation Theory. *Computers in Human Behavior, 1152-1161*. Retrieved February 11, 2015, from www.elsevier.com/locate/comphumbeh
- 平成25年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査<速報>. (2014, April 1). Retrieved March 10, 2015, from <http://books.google.co.jp/books/about/情報通信メディアの利用時間.html?id=NRJbngEACAAJ>
- 三枝, 好, & 本間, 友. (2010). 「ネットいじめ」の実態とその分析 --- 「従来型いじめ」との比較を通して---. *京都教育大学教育実践研究紀要, (11)*, 179-186. Retrieved April 14, 2015, from Google Scholar.
- 長谷川, 聡, 安井, 明, & 山口, 宗. (2013). SNS の教育とソーシャルラーニング. *名古屋文理大学紀要, 13*, 51-58. Retrieved March 11, 2015, from Google Scholar.

メディアリソース

- Social Network. (n.d.). Retrieved April 5, 2015, from [http://www.merriam-webster.com/dictionary/social network](http://www.merriam-webster.com/dictionary/social%20network)
- Cyberbullying. (n.d.). Retrieved April 9, 2015, from <http://www.merriam-webster.com/dictionary/cyberbullying>